

今年度最初の土曜 AL を実施！

本校では、昨年度から土曜 AL（アクティブ・ラーニング）を年間 5 回ほど実施しています。これは、生徒の主体的な学習を推進するため、外部講師による講座の開講、校外でのフィールドワークや調査活動、探究活動や主体的学習などを生徒自らが選んで実行するものです。

今回は、9月12日（土）の第1回土曜 AL で行われた2つの講座の様子について報告します。

講座①「新聞記者の仕事と新聞の読み方」

文系に関する分野では、本校 OB である上毛新聞社の丸山卓郎記者を講師にお招きしました。「新聞記者の仕事と新聞の読み方」をテーマに行われ、1・2年生36名が参加しました。

講演では、実際の取材時の写真を提示しながら記事になるまでの流れを説明していただき、新聞記者の仕事について理解を深めることができました。また、実際の新聞記事を扱いながら、ニュースを読む際の視点を解説していただき、広い視点で物事を捉えることの重要性を感じる事ができました。生徒の感想でも、新聞を読む機会を増やしたいという意見が多く、社会の出来事を学ぶことに対しての意識の向上がみられました。



生徒の感想から（抜粋）

- ・普段、何気なく読んでいた新聞にもたくさんの工夫があって、そのおかげで読みやすくなっているのだと感じた。
- ・新聞記者の方々は、読者である私たちに正しい情報を素早く伝える努力をしていると知りました。これからは、1日1回少し目に入れる程度だとしても行いたいと思った。
- ・新聞記事には「多様さ」があると思った。一つの事実にも様々な見方があるということを知り、頭を置いてみるべきだと思った。
- ・分かりやすい内容で色々なことを教えてくれて、質問にも詳しく答えていただいた。今後の人生の一つの転換点として講演会を活かしていきたい。

講座②「大気汚染について PM2.5 の測定と大気汚染の現状」

理系に関する分野では、群馬県衛生環境研究所の熊谷貴美代様・齊藤由倫様をお招きし、PM2.5に関する大気汚染についての講演と専用装置を用いて校内及び、国道沿いの PM2.5 の測定体験を行いました。



講演では、大気汚染に関する歴史的な流れと現状、さらに PM2.5 の最新の研究報告、県内の大気汚染の状況等を、豊富な資料を基にわかりやすく説明していただきました。その後、PM2.5 について、事前に校内の異なる場所で測定した結果を基に、分析を行いました。大気というあまりにも身近にあるが故に、その実態についてよく理解していなかった生徒は、新たな知見を得られ、有意義な時間を持つことができましたようです。

生徒の感想から（抜粋）

- ・大気汚染によって世界では年 700 万人もの死者が出ているのを知り非常にびっくりした。空気が汚いだけだと軽く見ていたのだと身にしみて感じた。また、PM2.5 については対策が難しいということを知って、とんでもない大問題なんだと感じた。
- ・経済が発展していくと、それにともない新たな環境問題が発生する。これからの社会は経済の発展と環境の両方の面に気をつけていかなければいけないと感じた。